

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870201294
法人名	医療法人かとう内科
事業所名	都市型グループホームゆう
所在地	愛媛県今治市立花町2丁目9-35
自己評価作成日	平成23年10月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>母体が病院なので、相談や連絡ができ適切な受診や看護が受けられる。手作りのご飯。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>母体病院の栄養士が立てた献立に沿って、食事当番の職員が食事を作っておられる。野菜は地元の農家からや事業所の畑で収穫したもの、肉や魚は専門店から配達してもらい、新鮮な食材を使って調理されている。又、だしはiriこと昆布で取るようにされている。職員は、利用者と同じテーブルで利用者と同じものを食べながら、献立や食材の話で会話も弾んでいた。利用者が「美味しかる。毎日こんなよ。」と、笑顔で話してくださった。 2週間に一度、認知症の専門医の診察も受けておられ、ケアについて相談されたり、薬を処方していただいている。 ご自宅が近くにあり、毎日の散歩時に自宅へ立ち寄りしてみる方もいる。秋になると、ご自宅の栗畑のお話をよくされる利用者があり、職員と、ご自宅の栗畑に栗拾いに行かれており、ご本人はたいへん喜ばれたようだ。ご家族や職員と一緒に馴染みの美容院にパーマや毛染めに行く方もある。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム『ゆう』

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏名 秦 珠美

評価完了日

H23年 10月 14日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)	
			目に付く場所に理念を貼り、日々実践している。	
			(外部評価)	
			職員で話し合われて、3項目あった理念を一つにまとめられ、「話しやすく、和やかな雰囲気づくり」と決められた。理念は居間や事務所に掲示され、職員は、自分自身の気持ちが落ち着かないような時には、理念を思い出して立ち戻るようにされている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)	
			近所の方が野菜を持って来てくださったり、毎日の散歩途中での挨拶や会話を大切に地域の事業になるべく参加しながら地域との交流に努めている。	
			(外部評価)	
			自治会長が「今治市報」と「たちばなカルチャーだより」を届けてくださり、市や地域の行事を知ることができ、利用者が参加できそうな行事には、積極的に出かけておられる。地域の「福祉フェスティバル」では、利用者が折り紙で作ったアジサイの花の作品や編み物作品を展示していただいた。年末の餅つきの時には、近所の方がお餅を搗いてくださったり、丸める手伝いをしてくださった。近くの高等学校の運動会を見学に行かれた際には、利用者の見物席を用意してくださった。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			特には実施していない	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 評価への取組み状況等について報告や話し 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	(自己評価)	
			地域の方の意見や情報を素にサービスの向上に活かすよ つとめている。	
			(外部評価)	
			会議では、利用者の状況や活動報告をされている。住民代 表からは、文化祭や防災訓練等の地域の情報を教えていた だいている。利用者も会議に出席され、他のメンバーからの 質問に「機嫌よくやってます」と答えられたり、ご自分のこれま での経験等を話されることもある。会議の議事録は、玄関に 置き、出席されなかったご家族の来訪時には、会議内容に ついて報告をされている。	管理者は会議に、「ご近所の方にもっと参加していただき、 身近な声が聞こえるような会議にしたい」と考えておられる。 日頃かかわりのある地域の方から、ネットワークを拡げる等し て、いろいろな立場の方の参加していただけるように、会議 の内容やすすめ方等を工夫していかれてほしい。又、会議 を通じて事業所の認知症の専門性を活かしながら、地域の 認知症ケアの向上にも努めていかれてほしい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでい る	(自己評価)	
			芋ほりや餅つきなどの行事の参加も呼びかけるなどの工夫 をし、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
			(外部評価)	
			市の担当者が、運営推進会議に出席していただき、災害対策 について話し合った際には「水害についても考えてみて は？」等、アドバイスをいただいた。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			身体拘束をしないケアにとりくんでいる。玄関のオートロック は取り外しは不可能だが気候の良い時は開け放す等の工 夫をしている。	
			(外部評価)	
			ベッドから転倒する心配がある利用者の方は、床に布団を 敷いて休めるようにされている。おむつを外してしまう利用者 の方がおられ、やむ得ず、つなぎ服を着用してもらっていた ようだが、職員で話し合い排泄支援を重ね、つなぎ服を着用 しなくてもすむようになり、又、夜間もよく眠れるようになった ようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 10月8日の研修にスタッフ1名が参加、順次、研修に参加しながら、虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 機会があれば研修に参加している	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 説明し、納得して頂いている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 2ヶ月に1回の運営推進会に順次参加して頂いたり、面会時での意見や要望は可能な限り反映させるようにしている。 (外部評価) ご家族が事業所に来られた時に、利用者の最近の様子を報告されたり、意見や要望を聞くようにされている。年2回発行されている「ゆうだより」は、利用者の様子や行事時の写真を載せて、ご家族に送っておられる。県外に住んでおられ、来訪が難しいようなご家族には、毎月の書類とともに、利用者ご本人の様子を書いた手紙を同封されている。昨年のクリスマス会は、ご家族にも参加を呼びかけ、約半数のご家族が出席くださり、利用者と一緒にゲーム等を楽しまれた。	ご家族の心情も踏まえて、事業所のサービスについて意見や要望を具体的にうかがえるよう、今後も工夫を重ねていかれてほしい。たとえば、事業所の食事や入浴、外出等のサービスの実際を見ていただいたり、一緒に活動しながら、意見や要望を具体的にうかがってみてはどうだろうか。又、行事参加を働きかけられたり、ご家族が知りたい情報を提供できるよう、希望等を聞き取り、報告を工夫してみたい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			毎月1回あるカンファレンスにて意見を聞き実施している。	
			(外部評価)	
			月1回のカンファレンスには、施設長も参加され、職員の意見を聞くようにされている。管理者は、外部研修で習った口腔体操を食前に採り入れることを提案され、調査訪問時の昼食の前には、利用者と職員で行っておられた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			年に2回の慰労会(親睦会)を開催をしたり、60歳以上の職員に対しては年に1回の面談をおこなっている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			今治市内や県在宅介護研修センターである研修を中心に個々の力量を把握し、研修に参加するようにしている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			地域密着型サービス協会の相互研修に参加するなどして交流する機会を持つようにしている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			傾聴し信頼関係づくりに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入所時の説明時に家族の方から色々と話を聞いて、希望等も聞くようにしている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>同法人の病院や通所リハ、家族の意向を見極めながら初期対応している。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の方と日常会話をしながらよりよい関係が築けるようにしている</p>	
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>頻回に来所される家族には、普段の様子を話したり最近の掲示されている写真を見て頂いている。遠方の方には毎月近況報告、ゆう便りの郵送をし、共に利用者を支えていくような関係を築いている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族の方や、昔ながらの友人、親戚の方が、面会に来てくださっている。行きつけの美容院への送迎もしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご自宅が近くにあり、毎日の散歩時に自宅へ立ち寄ってみる方もいる。友人が尋ねて来られた際には、ゆっくり過ごしていただけるように、職員が居室にお茶を運んでおられる。秋になると、ご自宅の栗畑のお話をよくされる利用者があり、職員と、ご自宅の栗畑に栗拾いに行かれており、ご本人はたいへん喜ばれたようだ。ご家族や職員と一緒に馴染みの美容院にパーマや毛染めに行く方もある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士のコミュニケーションがとれるように日々工夫し、孤立しないように関わり合い支えあえるように努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された方の家族からの相談があるときは相談にのっている。」	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 時々、利用者の方に要望等を聞くようにしている。 (外部評価) 入居時には、センター方式のアセスメント表を用いて、利用者の生活歴やご本人そ取り巻く環境についてご家族から情報を得ておられる。「自宅に帰りたい」と希望する利用者、ご自宅に戻ってみられた際には、ご家族にも喜ばれ、ご本人は仏壇に手を合わせられて、たいへん満足されたようだ。散歩をしながら、お若い頃のお話やご家族への思いを話される利用者もいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族の方からの基本情報、病院からのサマリー、支援事業所からの情報等で把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 朝夕のミーティングや申し送りノート、日々の観察等で把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			毎日の個人の経過記録やモニタリングを参考に本人や家族の希望を聞きながら、現状に即した介護計画を作成している。	
			(外部評価)	
			介護計画は、ご本人やご家族の希望を聞いて、職員で話し合い、ケアマネジャーが立てておられる。利用者個々の担当職員が2ヶ月ごとにモニタリングを行って、計画は6ヶ月ごとに見直しされている。介護計画にもとづき、支援した内容を日々の介護記録に見やすく記入できるように番号を振って記入されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			個別の介護記録の表紙にサービス計画を貼り、情報の共有に努め、今後の介護計画の見直しに活かしている。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			臨機応変に対応できるように取り組んでいる。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			毎月、図書館に行き利用者の要望や興味のある書物を借りてきている。地域の行事にも参加できるものはしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 希望のかかりつけ医に受診、送迎している。かかりつけのない方はかとう内科医師と相談して受診できるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者は、母体病院がかかりつけ医となっていて、2週間ごとに往診を受けておられる。夜勤の職員は、利用者の様子を電話で毎日医師に報告されており、緊急時に対応してくれるようになっている。以前からかかっている病院や眼科、耳鼻科の受診は、ご家族が付き添っておられるが、ご家族の都合に合わせて職員が同行されている。2週間に一度、認知症の専門医の診察も受けておられ、ケアについて相談されたり、薬を処方していただいている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 職場の看護職員に伝え、相談をおこなっている。」	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 母体が病院なので、情報の交換、相談、関係者との関係づくりはできています。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合、本人や家族と話し合い、終末期ケアの方針の共有化を図っている。	
			(外部評価) 入居時、重度化した場合のことについて、医療連携のことや急変時・事故時の対応マニュアルを説明されている。ご家族は母体病院が近いこともあり安心されているようだ。利用者が重度化した場合には、利用者の状態を医師から説明があり、今後のことについては、入院を選択されることが多いようである。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的には行なえてないが各自が研修等に行っている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防火管理体制、避難経路を廊下に貼ったり、年2回の避難訓練を行い全職員で対応できるようにしている。又、地域の災害訓練にも参加し協力体制を築けるようにしている。災害用品も準備している。 (外部評価) 年2回、避難訓練を行っておられる。今年1月の避難訓練時には、通報訓練を実際に行ってみられたり、消火器の使い方を実験された。利用者も避難場所である近くの高等学校まで避難された。2階ユニットからの避難については、職員が利用者役になって、マットを使い非常階段から避難する方法を実験された。ご近所の方には、災害時の協力を依頼されている。	11月に地区の防災訓練があり、職員が参加する予定になっている。管理者は「地域の方とも防災について話し合う機会にしたい」と話しておられた。訓練で気付いたこと等を話し合ったり、意見を参考にしながら、いざという時に備えて体制を整えていかれてほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人の居室への入室の場合は必ず了解を得てからにし、声掛けもプライバシーを損なわないようにきをつけている (外部評価) 職員は「さん~しますか」と、利用者が行動を決められるように、ていねいに言葉かけをされていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 散歩や入浴、行事ごと(フラダンス、手品)など、一人ひとりに声かけし嫌な場合は無理に参加させない様本人の自己決定を尊重している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 午前と午後の体操とおやつ以外は自由にすごされていま す。体操やおやつも強制ではありません。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 月1回の散髪や顔そり、美容院(毛染めやパーマなど)への 送迎をしその人らしい身だしなみを心掛けている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の皮むきや食器洗い、テーブル拭き、お盆拭きなど、で きることは一緒にしている。 (外部評価) 母体病院の栄養士が立てた献立をに沿って、食事当番の職 員が食事を作っておられる。野菜は地元の農家からや事業 所の畑で収穫しても、肉や魚は専門店から配達してもら い、新鮮な食材を使って調理されている。又、だしはいいこと 昆布で取るようにされている。職員は、利用者と同じテー ブルで利用者と同じものを食べながら、献立や食材の話題で 会話も弾んでいた。利用者が「美味しかる。毎日こんな よ。」と、笑顔で話してくださった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 毎回、食事量・水分量を記録し、一人ひとりの状態をチェッ クしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 1日3回毎食後、口腔清拭を施行し清潔の保持に努めてい る。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			オムツの使用を減らし、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援をおこなっている。	
			(外部評価)	
			おむつをはずしてちぎっていたような方もあったが、定期的にトイレに座るように支援して、トイレで排泄できるようになって、気持ちよく過ごせる時間が増えた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			便秘気味の方には、繊維が多く含んだ食品を多く摂取して頂き足り、運動への働きかけを行う等予防に取り組んでいる。	
			(外部評価)	
			毎日入浴される人もいますが、清潔面を考慮しながら、ひとりに声かけし、入浴したくない方には無理強いはいないようにしている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			お風呂は毎日準備され、午後から入浴されている。2日に1回は入浴できるように支援されているが、希望で毎日入浴される方もいる。入浴剤を入れることを好む方や湯船につかると「極楽、極楽、ありがとう」といいながらお風呂を楽しんでおられる方もある。	
			(外部評価)	
			夜間、安眠できるよう日中にはある程度の活動をして頂いたり自由に居室に行き来し、ソファーでくつろいだり、ベッドで横になったりの休息の支援もしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬確認カードを作成し、日頃より服薬の支援と症状の変化に気を付けている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 料理の好きな方には野菜の皮むきや味見をして頂いたり、コーヒーの好きな方には自由に飲んでもらうなどしたり、散歩やドライブ等気分転換の支援に努めている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 年数回のミニ旅行の実施、普段の天気の良い日は、ほぼ毎日散歩に行っている。かかりつけの病院や銀行、美容院への送迎や「自分の家が見たい」方への支援をしている。	外出するといきいきする利用者も多く、職員は、「もっと、外出、ドライブの機会を作りたい」と考えておられる。利用者の外出についての意向や希望を探ったり、又、ご家族にも相談しながら一緒に出かけて楽しむような機会を作ってみてはどうか。
			(外部評価) 天気のいい日には近所を散歩されたり、数名でドライブに出かけておられる。ドライブの途中、利用者は「この辺は私の生まれ育ったところよ」、「外の空気はいいね」等、お話しよくされるようだ。歌を歌いながらドライブされることもある。季節に応じて、梅や桜・コスモス等、お花を見物に出かけて楽しんでおられる。今年度は、しまなみ街道へ小旅行に行かれる予定となっている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 1人ひとりの希望や能力に応じてお金を所持したり、使えるように支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族、大切な人に、本人自ら電話したり手紙のやり取りができるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	夏はすだれや緑のカーテンをするなど、天気や気温によってエアコンの使用や窓の開閉をこまめにしている。玄関には季節の花を飾って季節感を採り入れている。	
			(外部評価)		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	リビングの座席には自分の馴染みの座布団を置き、パズルやゲームをしたり、テレビを見たりして思い思いに過ごせるように居場所の工夫をしている。	
			(外部評価)		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	家族の写真や好みの小物や馴染みのものを置き、本人が居心地よい空間を作るよう工夫している。	
			(外部評価)		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	居室やトイレがわかりやすいように大きな字で貼り紙をして自分の行きたい場所がわかりやすいようにするなどの工夫をしている。	
			(外部評価)		